

「ムカツキ」「キレル」 子どもたち

少年による凶悪な犯罪が激発しています。子どもたちの成育環境の悪化のなかでもとりわけ、子どもたちが一日の大半の時を過ごす学校の現実とそこで行われている教育の質は深くさぐられなければならぬと思います。

「中学生によるナイフ殺傷事件」が起きたなかで、「学び」の場としての学校がその安全性をどう取り戻していくかも緊急の課題となっています。

特集は「むかつき」「キレル」子どもたちと題して新潟県の現実にできるだけ即して、これらの課題解明にせまります。

子どもたちがなぜ「むかつき」「キレル」のか、教師や親はそれにどうむきあい、どうしているのか。

県の教育行政担当者はこれにどのような見解と対策、緊急的教育条件整備策を教師や親に提示しているのか、またことの重大さにかんがみ、教職員が一致して事にあたる方向を提示できる教職員組合はなにを考えているのかについてなど各分野から語ってもらいました。また教育問題研究者たちの論文の中の問題提起も、今後のひろく自由な討論の素材として提供します。